

鳴門市第一小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現
- 学校と家庭が連携し、課題に対して粘り強く取り組む児童の育成

校長

尾崎徳彦

学力向上推進員

矢野 由利子

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

校内研修や研究授業、教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、真面目に取り組む児童が多い。 ●語彙数が少なく、正確に文章を読み書きすることに課題がある。 ●学力の二極化が見られるところもある。	・算国の単元テストで、低学年8割以上の児童が85％ 中学年8割以上の児童が80％ 高学年8割以上の児童が75％達成を目指す。 ・基礎的・基本的な読み書き・計算が確実に身につく、それらを活用することができる。 ・語彙数を増やし、正確に文章を読み書きすることができる。	・AIドリルや読解プリント・視写活動に取り組む。 ・漢字・計算小テストを実施する。 ・週1回読書時間を確保する。 ・日記や要約活動を取り入れ、文章を書く機会を増やす。 ・他学年・他教科の教員が相互に授業参観を行う。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の考えを積極的に発言したり、話し合い考えを深める学習が好きな児童が多い。 ●友達の意見と自分の意見や考えを比較したり関連付けたりすることに課題がある。	・これまでの学習を手がかりにしなが、自分の考えを書いたり伝えたりすることができる。 ・進んで自分の考えや根拠を述べたり、友達の発言と比較したりすることによって、自分の思いや考えを広げ深めることができる。	・ペア・小グループ・全体での話し合い活動を取り入れ、感想や他者の考えを共有する場面を作る。 ・根拠を述べたり、多様な意見を引き出したりできるように話し合いのテーマを工夫する。 ・電子黒板やタブレット端末を活用し、友達の考えを明確化し、比較・関連付けすることで、「協働的な学び」を実現する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、友達と協力しながら前向きに学習に取り組める児童が増えた。 ●粘り強く取り組むことに課題がある。 ●主体的に取り組む力の育成	・自ら課題を設定し、主体的に学習に取り組むことができる。 ・最後まで粘り強く課題に取り組むことができる。 ・宿題や自主学習に取り組む、家庭学習の習慣を身につけることができる。	・授業の最後の振り返りの時間を確保し、振り返りの視点を明示し、方法（文章記述・記号による評価・話し合い）を充実させる。 ・学習の目標を明示し、言葉がけを工夫したり環境を整えたりすることで、最後までやり通せる意欲を持たせる。 ・PBSを継続的に取り入れる。			